

先日行われた（公財）全国高等学校体育連盟バレーボール専門部委員総会において、平成25年度の競技規則の取り扱いについて、以下のようにするとの説明がありました。

1. 平成24年度の高体連特別ルールを撤廃する。

・ 昨年度より、リベロのリプレースメント（リベロと一般の競技者の交代）の方法を一般のルールと同様に扱うことになったことから、混乱を避ける意味で「従来の高体連ルール（一つのラリー間で2組が一度に交代する）で交代した時には、一回目は審判が指摘をして正しい交代をさせ、反則としない」としたが、この特別ルールを撤廃する。

・ これにより、交代方法を間違えた時には一回目でも反則となる。（ポジションの反則）

2. サービスのレシーブ（レセプション）において「指を用いたオーバーハンドのレシーブをした時に、一つの動作であっても、連続してボールに触れた時には、ダブルコンタクト（ドリブル）の反則となる。

・ これは、指を用いたオーバーハンドでサービスレシーブをしてはならないということではなく、連続してボールに触れていなければ（ばらつきがなければ）、反則とはならない。

・ また、サービス以外の1回目のボール（相手からのアタックヒットや味方ブロックからのボール）については従来通り指を用いたオーバーハンドでレシーブした場合、連続してボールに触れても反則とはならない。

3. 非スポーツマン的な行為について

・ ある選手が非スポーツマン的な行為を行った場合、主審はゲームキャプテンを呼びチーム全体に対して口頭で注意をする。

・ 同じチームの選手（誰でも）が同一試合中に非スポーツマン的な行為をした場合、主審はその選手を呼び、その選手に対して、イエローカードを示し「警告」を与える。このときは得点の移動はない。この警告は個人に与えられるので、同じチームの別の選手が非スポーツマン的な行為をした場合にはその選手に対してイエローカードが示され、「警告」が与えられる。

・ イエローカードで警告を与えられた選手が同一試合中に非スポーツマン的な行為を繰り返した時には、レッドカードが示され、「反則」が課せられる。この場合、相手チームに1点とサーブ権が与えられる。

・ 「反則」を与えられた選手が更に同類の行為を繰り返せば「退場」や「失格」が課せられる。

・ 行為の内容によっては、口頭による「注意」がなくても、「警告」や「反則」が課せられることがある。

以上